

2023年6月4日(日)

老球の細道734号

### 第69回県高校体育大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 冨仁

かつて教えた生徒たちにコーチの私が入ったチームが、あれよあれよと勝ち抜き決勝戦まで来た。決勝では、なぜかコーチの私が得点を量産して見事優勝。さあこれから全国インターハイだと喜んだ時に、コーチの私が選手として入っているチームは全国大会に出場できるのだろうかと困惑している時、夢がさめた。私自身インターハイ出場を夢見た高校時代、夢かなわなかった後悔が今でも引きずっている(次の年後輩たちはインターハイ出場)。

先週、第69回県高校体育大会(インターハイ県予選)があいづ総合体育館をメイン会場にして開催された。大会史上初の福島東陵高校男女アベック優勝、決勝戦が男女ともに福島東陵対帝京安積のアベック対決と歴史に残る大会となった。また、帝京安積も男女ともに鍛え抜かれたチームであり、いずれなんらかの大会で福島東陵のようにアベック優勝を果たすのも時間の問題だろう。

今大会は男子においてアップセットがあった。東北新人優勝の帝京安積が福島東陵に王座を譲った。県新人大会でベスト4に残った福島商業が日大東北に1回戦負け、同じくベスト4の福島南が準々決勝で開志A&Dに負けた。両チーム共に1月の県新人大会では東北大会で1、2位を争った帝京安積、福島東陵対して互角のゲームをしているだけに、日大東北、開志A&Dの健闘は称賛に値する。それにしても県北、県南地区のレベルの高さには驚かされる。

女子において4強は新人大会と変わらずであった。福島東陵が留学生のリバウンド力で今大会は優勝したが、男子同様県北、県南地区のレベルが高く、次の大会はどうなるかわからない激戦である。

地元開催で女子の初優勝が期待された会津高校は準々決勝で帝京安積に敗退した。チームの中心となる選手が1回戦でけがをしまい、以後の試合出場が不可能となってしまった。残った選手でなんとか頑張ったが、4Qまでは続かなかった。全国大会出場を予定してチームへの激励金集めを計画していたというOB会はさぞ残念なことだったろう。

チームの中心選手が大会前や最中にけがをする、ファールトラブルで退場するということはよくあることである。私もチームを率いていた頃は何度も経験した。そこで学習したことは、選手が調子のよい時は注意せよということである。調子のよい時は無理をする。疲れを感じない。このような時は要注意である。また、アクシデントは、いつ、どこで、何があるかわからない。常日頃から最悪の状況を想定した練習、準備をする。そして「人間万事塞翁が馬」の発想でチームの危機をプラス思考で乗り越えることも必要である。

今大会も最終日に残った会津地区のチームは皆無であった。そのせいか、せつかくレベルの高い高校の県大会なのに、地元の小、中学生の選手、指導者の観戦する姿があまり見られなかった。かつての若松商業(第58回優勝)のような地産地消のチームが待ち望まれる。